

理事長コラム

(社福)こぶしの会15周年を迎えて

3年間で学んだこと そして、これからのこと

就労継続B型 ここに

十輪院障害者福祉基金の助成決定!

就労継続B型 すたあと

普段参加できない仲間のことを考える

居宅支援

寒くない! いや暑いくらいや!

激走3000メートル!

生活介護 こっから

新春こっから初笑い寄席:

こっからに噺家さん来たる

～平和であることを切に願い～

相談支援事業

地域包括ケアシステム強化法が

障害分野に何をもたらすのか。

～共生型サービスって?～

Topix

2016年度 決算公告

はたらく障害者応援

プレミアム商品券の発売に関するご案内

編集後記

(社福)こぶしの会15周年を迎えて

社会福祉法人こぶしの会 理事長 藤井 正紀

今年（平成29年）は、社会福祉法人こぶしの会がこっからを開所して15周年を迎えることになり、記念旅行（有志）、植樹会、記念レセプションなどの行事を予定しています

法人の設立については、2001年9月に国からの認可が下り、10月8日に社会福祉法こぶしの会を設立しました。理事には、地域関係者、学識経験者、社会福祉関係者ら7名を選出し、桑山大祐（故人）氏を理事長、藤井正紀を施設長に選びスタートしました。ちなみにこの年の奈良県での障害者関係の社福法人は3か所が認可され、以前は1年に1カ所がやっとの状況から大きく飛躍した年でした。

（社福）こぶしの会の大きな仕事は、通所授産施設「コミュニティワークこっから」を建設することで、次の年の2002年4月1日に開所し、同4月21日に開所記念式典（130人参加）を行いました。その当時は、法人認可には、法人が土地を所有することが条件で、土地があれば、建物等の費用は国と県が4分の3を補助する仕組みになっていましたので、こっからの土地費用の約5,000万円の資金集めに奔走したものです。それまでも、土地探しにはいろいろ苦労しましたが、「この土地は良い顔をしている」と、言ってくれた莫設計会社社長の一言に勇気をもらい決断したものです。その当時から、施設といえば、山間の人里離れた場所にひっそりと建てられていたので、こっからは県道に面しており、西南に葛城山と二上山を、西側に生駒山を展望できる見晴らしの良い場所で、こぶしの会の発展を約束するのにふさわしい場所でした。

こぶしの会の命名についても、由来を披露しておきます。（社福）法人こぶしの会は15周年ですが、「こ

ぶしの会」という名前は、1989年4月にさかのぼり、「共同作業所後援会こぶしの会」という名前で作業所の後援会組織でした。したがって「こぶしの会」という名前の使用は今年で28年目を迎えることになります。この名前の命名者は前理事長の桑山大祐氏でした。

桑山氏によると、＜こぶしの花は、3月中旬ごろから花をつけ桜より一足早く春を告げる花で、白く無垢で清楚な花＞であり、＜障害者に一番早く春を＞との思いにぴったりだとの事でした。

その後こぶしの会は、法人を代表する言葉として大事に、大事に使ってきました。

花ことばは＜友情＞＜歓迎＞＜信頼＞であり、これもわが法人にはぴったりだと思っています。

こぶしの会では、秋ごろにはこっからの施設内に「こぶしの木」を植樹する予定しています。

また15周年記念を契機に、新たな事業（グループホームなど）を計画していますが、これらの新しい施設にもこぶしの木を植え、「障害者の春」をみんなで迎えたいと思っています。



3年間で学んだこと そして、これからのこと

社会福祉法人こぶしの会 常務理事 坂下 伸一

仲間から元気もらっています

「おはよう」と大きな声であいさつし、ハイタッチする仲間。

「今日は、自動車のって、配達に行く」と、早速仕事のことを気にする仲間。

「昨日、～～したよ」と職員に嬉しそうに話す仲間。

朝、バスが「こっから」に着くと、仲間たちの笑顔と元気が溢れます。何気ない毎日の様子や仲間たちから、私は元気もらっています。

長い教員生活を終えて、「こっから」へ来させてもらい3年が過ぎようとしています。この3年間で、社会福祉法人「こぶしの会」や生活介護事業所「こっから」そして、そこにいる仲間、家族、職員のみなさんから、私はたくさんのことを学ばせてもらいました。その中から、ここでは、2つのことを書いてみます。

3年間で学んだこと

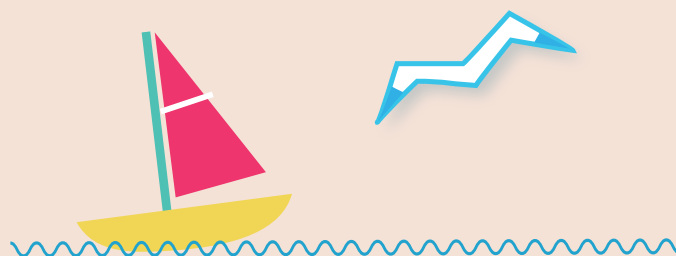
一つ目は、家族や職員の支えの中で、行きつ戻りつすることはありますが、仲間が確実に成長しているということです。それは「～を作ることできる」「おつりの計算ができる」というような技能、技術的な成長だけではなく、「休んだ仲間のことを気に掛ける」「仲間と一緒に歩く時にやさしく手をつなぐ」など、他の人たちのことを思いやる力、最も人間らしい力を獲得していつていることです。他の人を思いやったり、協力し合ったりすることが忘れられがちな社会の中で、仲間たちは、私に大切なことを教えてくれています。

二つ目は、日本の障害者福祉制度が必ずしも仲間

の成長を支えるものとなっていないということです。例えば、報酬支払の日割り制度の問題です。事業所を使っている仲間が休めば、その日の報酬は支払われないという制度です。これでは、その事業所の運営費不足はもちろん、職員の給料もその日は払えないということになりかねません。事業所や職員が生き生きしていないと仲間に成長を十分に支えることができないと思います。

これから、力を合わせて

今、社会福祉法人「こぶしの会」は、グループホーム、ショートステイ事業を中心にした新しい事業づくりを進めています。仲間が日中に働いたり、活動したりすることを支えるだけでなく、仕事から帰ってからの生活も含め、一日まるごと仲間を支える体制をつくろうとしています。それは、仲間が社会の中で自立していくための基礎を築こうとしていると言えます。先に書いたように、日本の障害者福祉制度は多くの問題を持っています。そうそう簡単には、新しい事業をスタートさせることができないでしょうが、たくさんのことを学ばせてもらったり、元気もらったりしている仲間の笑顔が曇らないように、小さな力ですが、家族、職員のみなさんと力を合わせて、仲間たちの未来を創りだしていきたいと思っています。



十輪院障害者福祉基金の助成決定!

奈良市内にある寺院、十輪院様が毎年行っておられる「十輪院障害者福祉基金」の助成事業に応募させていただいたところ、ここを含めた県内4施設に助成が決定し、先日行われた授賞式に3名の仲間と私で出席してきました。

今回応募した内容は、ここに市にお越しになるお客様のために階段に手すりを設置し、階段から玄関までの狭くて砂利敷きになっている通路を広げて平面化させるための工事費用への補助でした。

ここには、傾斜地に立地しているために構造上店内に入るには必ず階段を昇降しなければならず、ここに市のお客様で階段の昇降にご苦労されている方が何名かおられるのを目の当たりにし、何とかしたいという想いから今回応募させていただきました。

授賞式当日は、皆でいつもより少しだけキッチリした服装で参加し、神妙な面持ちで式に臨みました。ゆるキャラの「なーむくん」も登場し、目録を受け取りました。

工事は既に終了し、早速お客様からご好評いただいております。十輪院様、ありがとうございました。

(文責 新谷 和博)



普段参加できない 仲間のことを考える

今年度のクリスマス会は、仲間自治会で何度も話し合った結果、「ここすた」独自で、仲間が企画することになりました。

大事にされたのは、「普段参加できない仲間のことを考える」ということでした。

そこで決まったことは、

- *「ここに」「すたあと」それぞれ、歌と踊りの出し物をする。
- *オードブルを注文する。
- *スープを自分たちで作る。
- *プレゼントのクッキーや、デザートのケーキは、こっからパン工房に準備してもらいます。

ある仲間は、仕事が終わってからスーパーにオードブルのカタログをもらいに行き注文しました。ある仲間は、お母さんがコンビニでお仕事をされているので、そこでも注文したいと提案されました。パン工房にクッキー、ケーキの注文をしに行ったのも仲間です。

自治会では、なかなか意見の言えなかった仲間で、手を挙げて意思表示をされていました。また、それぞれがお互いを思いやり「全員参加」を準備段階から意識することで、本当に素敵なパーティーとなりました。



「仲間が主人公」が法人の理念ですが、その中心は、自己決定によるものです。いろいろな違った意見をくぐり抜け、「みんなの意見を集めた集団の決定」の難しさと楽しさ、そこから得られる自己変革を経験しました。

一朝一夕に出来上がるものではなく、一年を通して積み上げてきた「仲間集団の力」が発揮されました。仕事納めの日には、居酒屋で忘年会も行い、大いに盛り上がりました。(文責 島 耕治)



寒くない! いや暑いくらいや! 激走3000メートル!



師走に入っすぐの日曜日、グループホームの仲間7名が3台の車に乗り込み山間へ。カーブや坂道を何回も越え、たどり着いた先は……山添村にある布目ダム。

今年で3回目の出場となる12月4日開催のマラソン大会に参加しました。例年より暖かく雨も降らず、とても過ごしやすい気候でした。

会場に到着し受付を済ませ、ケガのないように準備体操とウォーミングアップの走りこみ。誰もが真剣な表情です。スタート地点にて少し待機するのですが、一番緊張する瞬間……。ピストルの合図とともに一斉に他の参加者と一緒にスタート。スタートダッシュは勢いがすごく400mくらいは止まらずに走りきります。400mを超えるとそれぞれのペースで。沿道の方も「がんばれー!」と応援して下さり、気合いが再びスイッチオン! 仲間の方の脚力がすごくスタッフが置いていかれるという場面も。(3kmってなかなかハードなんです……。)

一番早い人で3kmを18分で。他の方もだいたい30分前後でゴールされました。

冬の体力作りのために取り組むようになったこの企画ですが。身体もボカボカになり、走り切ったという達成感で満たされる、そんな体験を積み重ねています。走り終わった後はお楽しみの打ち上げ大会! 体力消費した分モリモリと食べて飲んで大盛り上がり。そして、参加賞のタオル、完走したゼッケン、頑張った証の記録証を手にホームへと帰りました。

(文責 ふゆーちゃー広報担当)

平和であることを切に願い

～新春こっから初笑い寄席：こっからに噺家さん来たる～



こっからは障害のある人の「はたらく」を大切に活動する施設です。どんなに障害が重たくてもはたらく権利を保障しようと、1人ひとりの障害特性に合わせた仕事を模索してきました。はたらく中でたくましく、労働を通じて社会や地域とどう結びついていけるか。安心して暮らせる仲間の所得保障の実現、誰もがここで生まれてよかったと思える地域づくりの実現にむけ、仲間と共に各々が役割を持って活動しています。仲間も職員も支えて下さる皆様と共に。

「はたらく」を継続していくには、心の中に遊びも必要。

余暇支援の一環として土曜日不定期で開所しています。(平均2回/月：2016年度)

農作業や運動会、プール遊泳、おやつ作り、流しそうめん大会、書道等、日常生活がより豊かになるような取り組みをしています。

開所15年を迎えたこっから、2017年初めての休日開所日は新春こっから寄席を開催。

噺家 『六斎亭空念仏』さんの独演会と新春遊び。稽古暦7年の中学1年生、空念仏さんは障害者施設で話をするのは初めてとの事。少々緊張されていましたが「動物園」「ぜんざい公社」共に面白おかしく話をしていただきました。

空念仏さん、落語家になったきっかけはたくさんの人を笑顔にできるよと誘われたからだとか。

落語を聴く仲間の姿はみな真剣。お腹を抱えて笑う仲間の姿こそありませんでしたが、合間の休憩には、高座に上がり身振りをまねる仲間の姿が。その雰囲気は真打ちのようで、古典芸能のお笑いを楽しく過ごせたようです。

共に働き、共に暮らし、共に笑う、共に楽しむ。人として当たり前前の営みを感じるには何より平和でなければならない。

幸せに感じられた時間、共に楽しんだ今を大事にするには、平和への願いを常に意識していないと。

高座に上がり、真打ちの真似をする仲間の姿に口角が緩み、心が和む。

ただただ、人として何より大切な時間であり、この当たり前を守っていかないとけない。

誰もが安心し、ここで生まれてよかったと思える地域づくりを進めるには、平和である事。

「強い」「弱い」の物差しではなく、誰もがありのままの人でいられるような社会をめざし、少しずつでも歩を進めていきたいと再確認した一日でした。

(文責 梅田玲輔)

地域包括ケアシステム強化法が障害分野に何をもたらすのか。 ～共生型サービスって?～

先の国会で「地域包括ケアシステム強化法」が成立しました。マスコミ等では「介護保険に3割負担導入…」など介護保険に関わる部分が多く取り上げられていましたが、この法律は介護保険法だけでなく、社会保障全般に関わる30本もの法律を見直す一括法であり、障害分野にも大きく影響を及ぼします。

その改正で新たに「共生型サービス」が、介護保険事業の一類型として2018年から創設されます。これは、介護・障害・児童が同一事業所でサービスを受けるもので「効率よく生産性の高いサービスの提供」をうたう厚労省の目玉施策になっていくのは間違いありません。「65歳の介護保険優先問題を解決」と、厚労省は国会質問でも意気揚々と答弁していましたが、こういった動きを背景に介護保険事業所が生活介護を開設するところが

奈良市内でも随分増えています。保険制度のサービスで利用者負担はどうなるのか、減免の対象は? 果たして手厚い支援が保障されるのか? 利用料減免の範囲も、人員配置や設備、運営基準も詳しい中身はすべて「政省令にて決定」、何も明らかにされていません。効率性と財政抑制の観点で内容が決められていけば、障害支援の専門性が薄められていかないか、障害の重い人たちがはじかれてしまわないか心配です。こぶしの会も60歳を超える方が3人に。法人としての対応も含め、注視していく必要があります。厚労省による障害団体のヒアリングも5月から始まります。きょうされん、日本障害協議会等を通じて実態をあげていきます。

(文責 小針康子)

11月

11月



ミツから祭
今回も大盛況の一日でした。今年はなんと遠く石川県の施設職員さんが、祭の視察に。県外からも注目されるようになりました。



皇帝ダリア
近隣公園にミツからから株分けされた皇帝ダリアが大きく育ち、公園を訪れる人たちに喜んでもらえました。

1月



成人式
今年はIさんの成人式を仲間自治会の企画進行で行いました。ご両親や小学校時代の担任の先生もご参加いただき、成人の門出をお祝しました。

12月



クリスマス会
今年も仲間自治会が企画したクリスマス会が開催されました。今年のプレゼントはお揃いのネックウォーマーでした。

1月



お節会
活動班が天理教のお節会(おせち)に。お供えされたお餅が炭火で焼き上げられ、温かいお雑煮としておいしく頂きました。

2月



実習体験
紙漉き班のMさんが、とうふ工房で実習。真剣な眼差しで新しい仕事にチャレンジです。

2月

署名の取組み
今回、初めて仲間が他の事業所の利用者の方へ訴えに行きました。署名の目的を伝えるための劇を事前に練習し、皆さんの前で披露しました!!



3月



ありがとうございました!!
今回もカープスさんよりフードドライブ活動で会員の皆様から沢山の食材や食料品を寄贈していただきました。生活支援事業や食品製造の材料として大切に活用させていただきます。

4月



入所式
今年度は仲間2名を新たに迎え総勢48名のメンバーでスタートしました。嬉しいことや悲しいことも、これからはみんなと一緒に喜んだり乗り越えたりしていこう!!

6月



ミツから農園
お隣の休耕地をお借りして畑作業が始まりました。沢山の夏野菜が連日収穫されています。

5月



スポーツ大会
近隣小学校の体育館をお借りして開催。色々な競技に汗を流しました。

事業活動計算書

自:2016年4月1日 至:2017年3月31日

単位:千円

勘定科目		決算額
サービス活動増減の部	就労支援事業収益	24,998
	障害福祉サービス等事業収益	191,432
	経常経費寄付金収益	1,360
	その他収益	14,726
	サービス活動収益計(1)	232,516
	人件費支出	163,794
	事業費支出	20,665
	事務費支出	17,170
	就労支援事業費用	24,587
	減価償却費	9,428
活動増減の部	国庫補助金等特別積立金取崩額	-5,764
	サービス活動費用計(2)	229,881
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	2,635
	サービス事業外収益計(4)	3,332
	サービス事業外費用計(5)	264
	事業活動外支出差額(6)=(4)-(5)	3,068
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	5,703
	特別収益計(8)	20,178
	特別費用計(9)	22,048
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	-1,870
繰越活動の部	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	3,833
	前期繰越活動増減差額(12)	160,599
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	164,432
次期繰越活動増減差額(17)		164,432

貸借対照表 2017年3月31日現在

単位:千円

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	94,345	流動負債	8,220
現金預金	58,747	その他の未払金	500
未収金	32,092	未払費用	1,632
貯蔵品・原材料	1,962	他流動負債	6,088
他流動資産	1,545	固定負債	19,960
固定資産	245,898	設備資金借入金	13,500
基本財産	216,897	入所者借入金	700
その他固定資産	29,002	返戻引当金	5,760
建物	2,636	負債の部合計	28,180
構築物	883	【純資産の部】	
建物附属設備	7,721	基本金	50,840
機械及び装置	1,057	第1号基本金	50,840
車両運搬具	2,872	国庫等特別積立金	86,532
器具及び備品	2,969	その他の積立金	10,260
無形固定資産	203	次期繰越活動収支差額	164,432
工賃変動積立預金	500	次期繰越活動収支差額	164,432
設備等整備積立預金	1,000	(うち当期活動収支差額)	3,833
返戻引当資産	5,760	純資産の部合計	312,064
その他積立預金	3,000	負債及び純財産の部合計	340,243
差入保証金	400		
資産の部合計	340,243		

資金収支計算書

自:2016年4月1日 至:2017年3月31日 単位:千円

	予 算	決 算	差 異
【事業活動による収支】			
就労支援事業収入	24,840	24,998	-158
自立支援給付費収入	175,080	173,556	1,524
利用者負担金収入	12,110	12,855	-745
補足給付費収入	1,320	1,320	0
その他の事業収入	3,900	3,701	199
借入金利息補助金収入	110	132	-22
経常経費寄附金収入	3,600	1,360	2,240
受取利息配当金収入	4	2	2
その他の収入	7,620	3,198	4,422
事業活動収入計	228,584	221,122	7,462
人件費支出	152,885	149,032	3,853
事業費支出	22,380	20,665	1,715
事務費支出	19,179	17,170	2,009
就労支援事業支出	25,479	24,944	536
支払利息支出	340	249	91
その他の支出	2,880	15	2,865
事業活動支出計	223,144	212,074	11,070
事業活動資金収支差額	5,440	9,048	-3,608
【施設整備等による収入】			
施設設備等補助金収入	414	414	0
施設整備等収入計	414	414	0
【施設整備等による収支】			
設備資金借入金元金償還支出	2,250	2,250	0
固定資産取得支出	420	415	5
施設整備等支出計	2,670	2,665	5
施設整備等資金収支差額	-2,256	-2,251	-5
【その他の活動による収支】			
その他の活動収入計(7)	18,010	18,754	-744
その他の活動支出計(8)	18,010	18,754	-744
その他の活動資金収支差額	0	0	0
当期資金収支差額合計	3,184	6,797	-3,613
前期末支払資金残高	82,366	82,366	0
当期末支払資金残高	85,550	89,163	-3,614

はたらく障害者応援 プレミアム商品券の発売に関するご案内

発 売 場 所: 奈良県下の障害者が働く事業所(この事業に参加の99事業所→取扱店)
他に、「働く障害者応援フェア」や「障文祭」「国文祭」などのイベント会場、県庁内の販売会など、特定日にも販売いたします。

販 売 価 格: 300円…500円の商品券として利用できます

使える場所: 奈良県下の障害者が働く事業所(=取扱店→99事業所)
「働く障害者応援フェア」や「障文祭」「国文祭」などのイベント会場

販売の制限: 購入できる枚数は1名様最大10枚までとなります
※取扱店や販売会によって購入できる枚数が異なる場合がございます。
詳しくは取扱店までご確認ください
(すでに完売している場合はご了承ください)

◆詳細はこちらのホームページを
ご参照ください。
はたらく障害者応援プレミアム商品券
<https://premium-nara-sc.jimdo.com/>



編集後記

前号の発行からずいぶん間が空いてしまいました。後援会員の皆様には活動のご報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。すみませんでした。おかげさまで各事業所の仲間の人たちは日々仕事に活動にと、元気に頑張っています。また今年は法人設立15周年という節目の年となります。念願であった生活拠点施設の建設に向けて本格的に取り組みを始めることにもなりました。仲間を真ん中に、こぶしの会らしく「きょうどう」の力で歩んでいきますので、引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

(古木 一夫)